

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月1日

事業所名 コペルプラスさいたま三室 教室

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4			
	② 職員の配置数は適切である	3	1		体制上の配置は基準に達しているものの、療育数も増えている為、急な体調不良の際など、休みにくいこともあり、近隣の教室との連携取り合いながら応援要請をしている。
	③ 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4		段差などその都度危険の無いように伝えている。	照明スイッチや玄関の鍵が児童にも届くところにある為、やりたがる児童を予測して配慮している。
	④ 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4		毎日の掃除は必ず全員で行っている。 手洗い場のごみ箱は必ず空の状態にしている。	トイレと手洗い場が同じである為、職員の使用後は必ずアルコール消毒を行っている。
業務改善	⑤ 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5		業務を計画的に行い、見直しを行っている。	
	⑥ 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4			開所後、今回が初めての評価表の為、保護者様の意向を職員で共有し、今後の業務改善に繋がります。
	⑦ 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4			開所後、今回が初めての評価表の為、今回の結果を踏まえ、今後の支援の質の向上に繋がっていきたい。

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2		
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	2	事業所内研修は必ず毎月一回行っている。(安全計画の内容を含む)	外部研修はレッスンやその準備等で、研修の時間が取りづらいこともあるが、今後は積極的にきかいを作っていくたい。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4		社内アセスメントツールによって、適切に行っている。	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4		社内アセスメントツールによって、適切に行っている。	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4		アセスメントとインタビューによる必要な支援内容を職員全員で選択している。	

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4		毎回支援計画の内容の評価を行っている。	
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4		月末のコミュレでは、担当者が立案し話し合いをしている。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		固定のプログラムを使っているが、職員との共有で、工夫して取り組んでいる。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4		関係機関連携などを通して、お子さまの状況を把握し、保護者様から	

					の希望を確認した上でグループセッションを行っている。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4		職員間で共有と打ち合わせを兼ね「レッスンの振り返り」を必ず行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4		職員間で共有と打ち合わせを兼ね「レッスンの振り返り」を必ず行っている。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		打ち合わせの際には、「議事録作成」をしている。	
	⑳	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4		計画の見直しの際には、必ず行っています。	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	2	2	開所した際には地域の担当者会議に参加した。	今後は相談支援事業所の担当者会議に参加できるように働きかけたい。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4		保健センターの保健師との連携を取っています。	
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	該当なし			
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	該当なし			
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4		積極的に連携を取っている。	

との連携	②⑥	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	2	特別支援学校相談センターとの連携や相談支援事業所との連携によって、情報共有をしている。	今後はの近隣の小学校と、積極的に連携図っていきたい。
	②⑦	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	連携を図り、情報共有をしている。	今後はセンターでの研修に積極的に参加したい。
	②⑧	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	2	2	幼保園見学などに出向いている。	

保護者への説明責任等	②⑨	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		4		行政区に確認の上、今後は参加していたと考えている。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4		毎回のレッスンの際には必ず行っている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	4		月に一度「ペアレントトレーニング」を開催している。	より多くの保護者様が「ペアトレ」に参加できるような時間設定とテーマを考えていきたいです。
	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4		ご契約の際には必ず行っている。	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4		ガイドラインに沿った支援内容を作成し必ず面談で説明し、同意を得ている。	
③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		レッスンの間を使ってお話を伺っている。		
③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1	保護者会の代わりに「ペアトレ」や「コミュトレ」を毎月行っている。	より多くの保護者様が「ペアトレ」に参加できるような時間設定とテーマを考えていきたいです。	

	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4		レッスン中での相談は職員全員が速やかに対応し、その他に改めてきちんと時間を取り、相談に応じるようにしている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4		毎月のお便りや、line 配信等で発信している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4		個人情報の取り扱い、事業所内研修を行い職員全員で徹底した管理をしている。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		職員間で共有をしながら配慮に努めている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	2	子育てサロンを開催した。	
非常時等の対応	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4		計画的に開催している。	今後はご利用者様も交えて行う予定。
	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		法令通り行っている。	
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	1	契約の際に確認している。	
けい	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	1	契約の際にはアレルギーの有無等を確認しています。	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4		毎回共有をしている。	今後も定期的に声掛けし、ヒヤリハットの事例共有を増やし、事故を未然に防ぎます。

④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4		事業所内研修を行っている。	
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4		契約の際には「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書にサインを頂いています。	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。